



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

赤十字みやざき



特集

2020年
決算号



大型クルーズ船での救護活動に臨む赤十字救護班

新型コロナウイルス感染症
対応実施中!!

詳しくは
内面をご覧ください。



救いを託されている。

新型コロナウイルス感染症に対する赤十字の活動

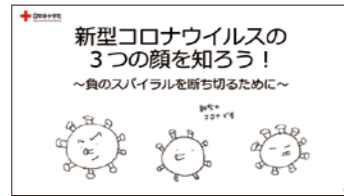


感染防止への啓発や心のケア

感染防止活動の拡大

日本赤十字社では、新型コロナウイルスがもつ、「病気・不安・差別」という“3つの顔”に焦点を当て、それらがつながる「負のスパイラル」について解説したガイドを作成し、新型コロナウイルスに対する正しい知識の普及に努めています。

また、感染の拡大に伴う、隔離や自宅待機といった行動制限下において、「こころの健康」を保つヒントとなるサポートガイド「感染流行期にこころの健康を保つために」シリーズを国際赤十字協力のもと作成。人々の不安や心配に対し、どのように対処したらよいのかの指針を紹介しています。



医療従事者への応援プロジェクト

それぞれの場所で、
いっしょに立ち向かっている仲間として、
全国の医療従事者にエールをおくろう

#最前線にエールを何度も

全国の医療従事者への応援プロジェクト
呼びかけ：日本赤十字社 協力：UNIVERSAL MUSIC

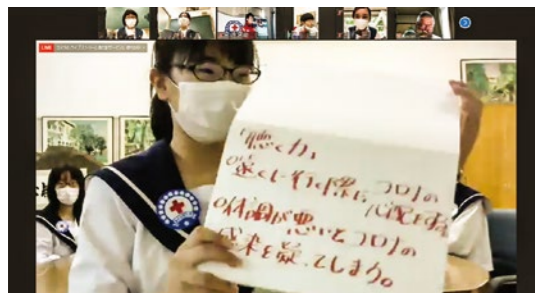
SNSで、「#最前線にエールを何度も」をつけて、エールをおくろう。

新型コロナウイルス感染症の最前線で立ち向かう全国の医療従事者へ、ともに立ち向かう仲間として、励ましの言葉や応援メッセージ、歌や演奏によるエールをSNS上から発信するプロジェクトを設立。新型コロナウイルス感染症に奮闘する方々の精神的な負担を和らげるとともに、そのような立場への差別や偏見の解消に努めています。



全国初!! 青少年赤十字 (JRC) オンライン講座

新型コロナウイルス感染症オンライン講座



日本赤十字社宮崎県支部

ジェスチャーを使った意思表示が行われるなど、オンラインならではの光景が見られました。

日本赤十字社宮崎県支部では、負のスパイラルを断ち切るために自分たちができることを「気づき・考え・実行する」ための動機付けを目的に、「**新型コロナウイルス感染症オンライン講座**」を開催しました。

5月30日(土)に行われた本講座では、県立高鍋高校、県立宮崎大宮高校、県立都城西高校の有志生徒を対象に開催され、生徒たちは新型コロナウイルスについて予防法などの正しい知識を学ぶとともに、新型コロナウイルス感染症の流行を通じて変化したことや気付いたことを踏まえ、「今、学生にできること」についてグループディスカッションを行いました。

学生からは、「**学んだことを、家族や友達など周囲の人に伝えていくことで、新型コロナに対する正しい知識と理解を広め、いじめや差別が起こらない社会をつかっていきたい**」といった意見が挙げられました。

また、本講座は、新しい生活様式に沿った活動形態の一つとして、WEB会議システムを用いたオンライン講座形式で行われました。指導者を含め32名の参加があったほか、講座の様子を動画サイトで視聴できる体制も整えられていたため、視聴者も含めると全国から総勢100名以上が集まりました。

また、今後のJRC活動の新しい事業展開の可能性を見いだせたよい機会となりました。

令和2年7月豪雨災害における日本赤十字社宮崎県支部の活動



[写真左]西米良村への災害救援物資の搬送(宮崎県支部)
[写真右]熊本県支部へ支援要員を派遣(宮崎県支部)

令和2年7月3日からの大雨は、熊本県をはじめ日本各地に大きな被害をもたらしました。

宮崎県においても、7月3日に県内各地で避難勧告等が発令されたことを受け、日赤宮崎県支部も情報収集等を開始。翌7月4日には第一次救護体制を発令し、宮崎県内および熊本・鹿児島両県への災害対応に備えました。

7月6日には避難所が開設された西米良村からの要請を受け、ただちに避難所生活に必要な救援物資を搬送しました。

一方、球磨川の氾濫により甚大な被害を受けた熊本県へは、日赤熊本県支部災害対策本部からの要請を受け、7月26日～29日の期間、宮崎大学医学部附属病院と支部職員で構成する医療救護班を派遣。新型コロナウイルス感染症拡大防止への対応も求められる難しい状況の中、避難所を巡回し、被災者の健康管理や保健指導、避難所における衛生管理を行いました。

また、日赤熊本県支部災害対策本部へは、7月12日からの計7日間、災害対策本部支援要員として計2名を派遣し、熊本県庁へ出向しての情報収集や熊本県支部へ集まった災害ボランティアのサポート、球磨村への救援物資搬送を行うなど、長期化する活動を支援しました。



[写真上]出発前の医療救護班(宮崎大学医学部附属病院)
[写真下]人吉市内の避難所を保健師とともに巡回(宮崎県支部医療救護班)



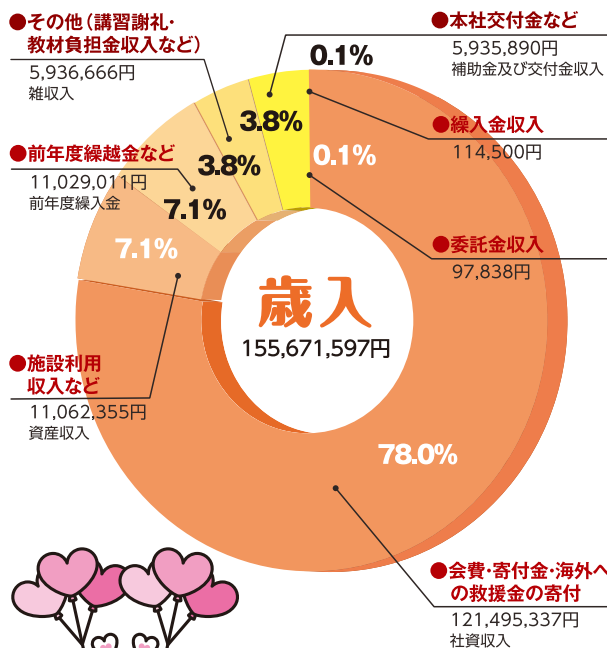
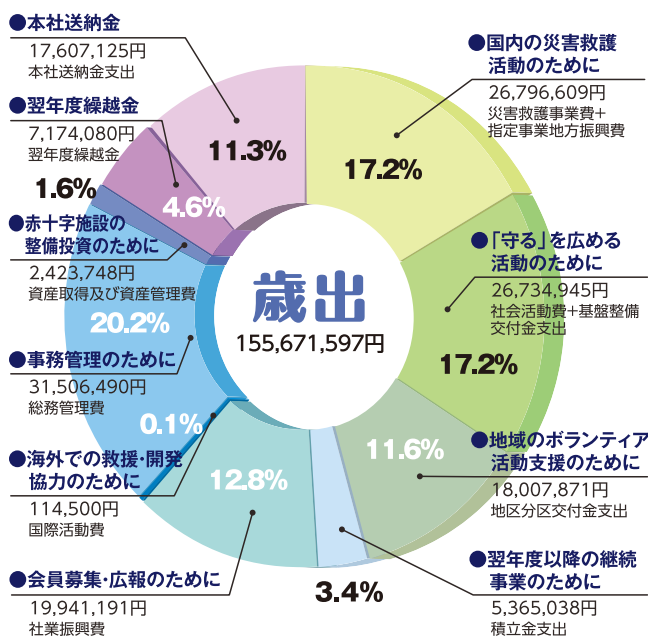
[写真上]日赤熊本県支部による被災地支援(シャワールームの設置)

本社をはじめとした全国の赤十字関係機関も、この災害に早期から対応。内閣府の被災地調査チームや被災自治体など関係機関へ職員を派遣し、情報収集や連絡調整を行ったほか、被災地では救護班やDMATによる救護活動が行われました。また、赤十字ボランティアによる活動も活発に行われ、日赤内部や被災地で多岐にわたるご支援をいただきました。



令和元年度 日本赤十字社宮崎県支部一般会計歳入・歳出決算

皆さまからいただきましたご寄付は、苦しんでいる人々や困っている人々を救うため、様々な事業に役立てられました。



翌年度繰越金
7,174,080 円

※本決算は、日本赤十字社宮崎県支部評議員会および日本赤十字社本社代議員会において承認されたものです。

義援金・救援金のご協力ありがとうございます

受付終了		
・令和元年台風第15号千葉県災害義援金	R1.9.8~R2.6.30	1,153,738円
受付中 (R2.7.31現在)		
・東日本大震災義援金	H23.3.14~R3.3.31	652,647,467円
・平成28年熊本地震災害義援金	H28.4.15~R3.3.31	155,318,112円
・平成29年九州北部豪雨大雨災害義援金	R1.9.30~R3.3.31	13,770,187円
・平成30年7月豪雨災害義援金	H30.7.10~R2.6.30	56,181,452円
・令和元年8月豪雨災害義援金	R1.9.2~R2.8.31	1,306,139円
・令和元年台風第19号災害義援金	R1.10.16~R3.3.31	18,190,468円
・令和2年7月豪雨災害義援金	R2.7.7~R2.12.28	2,067,969円
・中東人道危機救援金	H27.4.1~R3.3.31	4,265,486円
・バングラデシュ南部避難民救援金	H29.9.22~R3.3.31	94,350円

香典返しを寄せられた方々

日赤県支部 元日田 勉 様
宮崎市 宮内 睦朗 様
都城市 (故) 福永 カズ子 様
都城市 (故) 沖野 勉 様

延岡市 甲斐トシ子 様
延岡市 大神 英次郎 様
延岡市 河野 修一 様
延岡市 堀田 正伸 様



謹んでご冥福をお祈り申し上げます。
ご遺志に沿い赤十字事業に有効に活用させていただきます。

※順不同

赤十字について知りたい、寄付をしたい、ボランティアとして協力したい…。
そのような時は、日本赤十字社宮崎県支部までお気軽にお問い合わせください♪



日本赤十字社宮崎県支部

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号

TEL 0985-22-4045 FAX 0985-22-4178

E-mail miyazaki-info@miyazaki.jrc.or.jp

日本赤十字社宮崎県支部

検索

